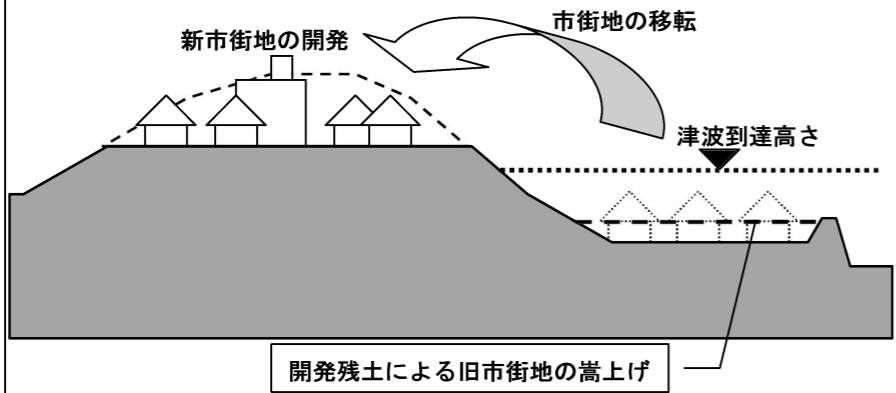
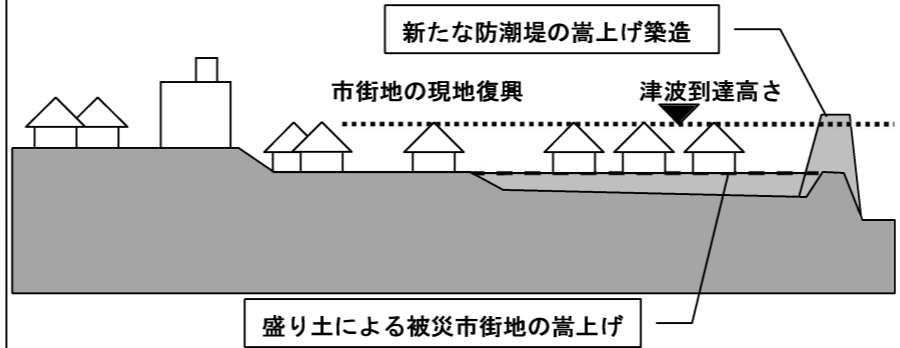
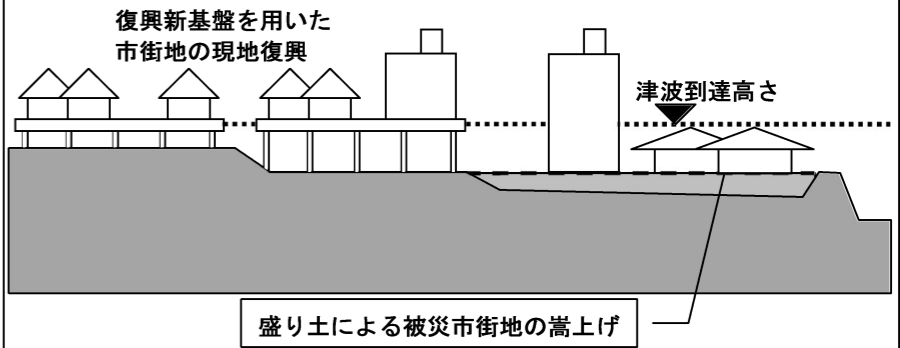


■市街地復興のイメージと特徴

復興パターン	移転復興（非現地復興）	現地復興	
	新市街地の開発	従前市街地基盤上での再生	復興新基盤建築を用いた再生
開発イメージ	<p>近隣の高台等に、新規に市街地を開発して移転復興を行うパターン</p> 	<p>防潮堤の築造や低地の嵩上げにより市街地を現地復興するパターン</p> 	<p>復興新基盤建築を用いて市街地を現地復興するパターン</p> 
特徴	<p>[必要となる事業費]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規市街地の開発事業費（アクセス道路、インフラ整備、土地造成）</li> <li>・新たな市街地の整備にかかる事業費（街路、宅地、住宅等）</li> </ul> <p>[メリット]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新市街地の安全性、防災性が担保される</li> <li>・旧市街は嵩上げにより、住宅以外の用途で活用できる</li> </ul> <p>[デメリット]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新市街地が漁港等と離れた場所となり、職住の関係が疎遠になる</li> <li>・新市街地の開発に、大きな事業費と期間を要する</li> <li>・住み慣れた土地を離れざる得ない</li> </ul>	<p>[必要となる事業費]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の到達履歴を上回る、新たな防潮堤の築造事業費</li> <li>・盛り土による低地市街地の嵩上げ事業費</li> <li>・新たな市街地の整備にかかる事業費（街路、宅地、住宅等）</li> </ul> <p>[メリット]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防潮堤により新市街地の防災性が担保される</li> <li>・元の土地所有権を継承して、住み慣れた場所での復興が可能</li> <li>・低市街地は嵩上げにより、住宅その他多用途に活用できる</li> </ul> <p>[デメリット]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防潮堤により市街地と海との関係が分断される</li> <li>・従前の土地所有権の復活・整理に時間を要する</li> </ul>	<p>[必要となる事業費]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・復興新基盤建築の築造事業費（新基盤建築、インフラ整備）</li> <li>・盛り土による低地市街地の嵩上げ事業費</li> <li>・新たな市街地の整備にかかる事業費（街路、宅地、住宅等）</li> </ul> <p>[メリット]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新基盤建築や津波ビル等により、市街地の防災性が担保される</li> <li>・元の土地所有権を区分地上権に置き換え、早期に復興に着手できる</li> <li>・低市街地は嵩上げにより、住宅以外の用途に活用できる</li> </ul> <p>[デメリット]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新基盤建築を用いない低地市街地は、将来の被災の恐れが残る</li> </ul>
備考			